

観光客への情報提供と地域交流 の場が誕生！ ～『登別温泉ふれあいセンター』オープン～

8月4日(月)、登別温泉町に『登別温泉ふれあいセンター』(愛称『遊鬼』)がオープンしました。

同センターは、観光地の美観を損ねるとの声のあった旧温泉科学館を所有する道南バス(株)が、同館を内・外装工事や窓枠の改修を行うなどリニューアルし、これを市が借り入れたもので、登別温泉支所が入居するとともに、観光客や市民が無料で利用できるパソコンやプラズマディスプレイ、貸し出し図書約3,000冊などが置かれた情報ホール、各種会議やイベントに利用できる多目的ホールが設けられました。

開館式典は、関係者約60人が参加して行われ、テープカットの後、上野市長は「ふれあいと交流の場として、また観光客のインフォメーションとして、活用していただきたい。地域の活性化の手助けになることを願っています」とあいさつ。式典後は、オープンを祝い、情報ホールで三味線奏者の白田路明さんのミニコンサートが開かれました。

利用時間 登別温泉支所：9時～17時30分、情報ホール：9時～17時、多目的ホール：9時～22時(事前の申し込みが必要・有料)

閉館日 土・日曜日、祝日、12月31日～1月5日



未来へと、姉妹都市の絆をつなぐきずな ～平成15年度登別・白石姉妹都市少年スポーツ交流事業野球大会～



8月10日(日)、若草公園野球場と川上公園野球場で平成15年度登別・白石姉妹都市少年スポーツ交流野球大会(登別・白石姉妹都市交流推進協議会主催)が開かれました。

この大会は、登別市と姉妹都市・宮城県白石市との交流事業の一つとして、昭和62年から開催され、毎年互いのまちを行き来しながら、野球やサッカー、武道などを通じて交流を続けています。

今年は、登別市・白石市とゆかりのある札幌市白石区も参加。3市区の少年野球チームから選抜された選手が真剣な表情で試合に臨んでいました。

白石市との姉妹都市提携20周年の今年は市民の関心も高く、多くの市民が来場し、子どもたちに大きな声援を送っていました。

市民600人が華麗な舞いを披露

～2003のぼりべつ豊水まつり～

7月19日(土)と20日(日)の2日間、ふるさとの豊かな自然と水に感謝する『2003のぼりべつ豊水まつり』が開かれ、会場の北駅前通りとらいば公園は夏のまつりを楽しもうとする大勢の市民でにぎわいました。

幼稚園児のかわいらしい遊戯でまつりがスタート。続いて缶積みやアイス早食い競争などの楽しいゲームや、勇壮な和太鼓の競演などが行われ、まつりを盛り上げました。

初日の夕方から行われた恒例の踊り『豊水トントン』には、市民団体や地元企業など22チーム約600人の踊り手が参加。浴衣姿の華麗な舞いが、登別のまつりシーズンの到来を告げました。

